



砂谷中学校だより 第13号

平成24年1月13日(金) 広島市立砂谷中学校長 中村 耕三
TEL (0829)-86-0554 FAX (0829)-86-0524
ホームページ <http://www.sagotani-j.edu.city.hiroshima.jp>

あけましておめでとうございます

平成24年が始まりました。 — 学校朝会でのあいさつから —

新しい年を迎え、それぞれ今年の目標は立てたでしょうか。

3年生は3月までの目標になるかもしれませんね。中学校生活の有終の美を飾るために、最後までしっかりがんばっていきましょう。

1、2年生はそれぞれ進級するための土台を作る時期です。今の自分をステップアップするために何が必要かを考えて目標を考えてみましょう。苦手なことにチャレンジするのもいいし、得意なことをさらに伸ばすのでもよいと思います。学習面、部活動、生徒会・委員会活動などさまざまな角度から自分をとらえてみましょう。



さて、みなさんどんなお正月を過ごしましたか。わたしは今年も箱根駅伝をテレビで見ました。その中で多くのドラマがありました。東洋大学の柏原選手の活躍はすばらしかったですね。箱根の山登りの難コースで4年連続区間賞を取りました。区間新記録も出しました。4年連続でこの大会に出場することもすごいことなのに、毎回期待に応える走り続けるためには口では表せない努力を重ねているのだと思います。中継の中で、「彼は甘いものが好きで、チョコレートを食べるんだけど、食べたあとにはその分余計に走る。」というエピソードが紹介されましたが、私にとっては耳に痛い話でした。私たちが普段の生活でそこまで自分に厳しく生活できているでしょうか。

みなさんも、親や先生、地域の方からいろいろな期待をされていると思います。その期待に応えるべく努力をしてください。そういう努力が結果的に自分を成長させ、自分の目標に向かっていく力になるのだと思います。努力に勝る天才はないということもありますね。

毎日少しずつの努力を積み重ねてレベルアップしていきましょう。

生徒会執行部が「STOPいじめサミット」に参加しました。

12月27日(火)にアステールプラザで開催された「STOPいじめ!サミット」に生徒会執行部の生徒が参加しました。

市教委の主催で児童、生徒、保護者、教職員約450名が参加して、いじめに至る過程やいじめられる側、いじめられる側の気持ちや解決法を表した寸劇などを見ました。最後はいじめ防止へのアピールを採択して終わりました。

この行事を通して、生徒会の諸君はいろいろなことを感じてくれたようです。生徒が落ち着いて生活できる砂谷中であり続けるために、生徒会執行部のみなさんのがんばりに期待しています。



【写真は生徒会交代式のもの】

1月行事

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1日	日	元旦	17日	火	生徒朝会 3年面接指導
2日	月		18日	水	
3日	火		19日	木	1年読聞会 授業参観
4日	水	仕事始め	20日	金	学校納金引落
5日	木		21日	土	英検
6日	金	3年登校日(午前中)	22日	日	
7日	土		23日	月	
8日	日		24日	火	3年学年末テスト
9日	月	成人の日	25日	水	3年学年末テスト
10日	火	学校朝会 授業開始 1年身体測定	26日	木	3年学年末テスト 2年読聞会
11日	水	生徒委員会 PTAあいさつ運動	27日	金	
12日	木	3年読聞会 2年身体測定	28日	土	
13日	金	3年身体測定	29日	日	
14日	土		30日	月	
15日	日		31日	火	学校朝会
16日	月				

【今後の予定】2・3月行事予定

- 2月3日(金) 公立選抜I・私立推薦入試
- 7日(日) 生徒朝会
- 14日(火) ~17日(金) 私立一般入試
- 15日(水) 1、2年授業参観・懇談 小学生6年参観・入学説明会
- 22日(火) 3年生を送る会 1、2年テスト週間
- 29日(水) ~3月2日(金) 1、2年学年末テスト
- 3月6日(火) 学校朝会
- 7日(水) ~8日(木) 公立選抜II
- 9日(木) 卒業式予行
- 11日(日) 卒業式準備(1、2年弁当持参)
- 12日(月) 卒業証書授与式
- 13日(火) 代休
- 21日(水) 大掃除・ワックスがけ
- 23日(金) 終了式

作家で詩人の高見順の晩年の話である。高見順は食道がんの手術を受けて病床に横たわった。ふと窓外を見ると、激しい風雨の中を少年が新聞を配達している。その姿に胸を揺さぶられ、高見順は一篇の詩を書いた。

なにかをおれも配達しているつもりで
今日まで生きてきたのだが
人々の心になにかを配達する
のが
おれの仕事なのだが
この少年のようにひたむきに
おれはなにを配達している
だろうか

ひたむきな新聞少年の姿が晩年の作家魂に光を灯したのである
人の心に光を灯す。それは自分の心に光を灯すことでもあるのだ。
そういう生き方をしたいものである。

「心に響く小さな5つの物語」
藤尾英昭より抜粋